1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070001377
法人名	社会福祉法人　松風会
事業所名	グループホーム　みやこの愛
所在地 (電話番号)	福岡県京都郡みやこ町豊津1205－1 (電　話) 0930－33－3851

評価機関名	株式会社アーバン・マトリックス		
所在地	小倉北区紺屋町4－6　北九州ビル8階		
訪問調査日	平成21年3月12日	評価確定日	平成21年4月15日

【情報提供票より】(平成21年2月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年11月1日	
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計　18　人
職員数	23　人	常勤　10人，非常勤　13人，常勤換算　16.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り
	1階建ての1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円		その他の経費(月額)	(水道・光熱費) 7,000円
敷　金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり　1,200円			

(4) 利用者の概要(2月28日現在)

利用者人数	17 名	男性	5 名	12	名
要介護1	5	名	要介護2	4	名
要介護3	2	名	要介護4	2	名
要介護5	2	名	要支援2	2	名
年齢　平均	84.9 歳	最低	73 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	のぐちクリニック／大原病院／小波瀬病院／田渕歯科

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成筑豊鉄道新豊津駅から徒歩3分の距離にある、自然豊かな環境にグループホームみやこの愛は位置する。近隣には奈良時代に建立された国分寺や菖蒲園・桜の名所八景山があり、車で出かけると歴史探訪や四季を感じることができる。みやこの愛は太陽光発電・オール電化など環境重視の機能を取り入れ、地域環境保全に取り組んでいる。室内は光触媒により抗菌・脱臭できるシステムも完備している。広い前庭・入居者自らが耕した畑・暖かく日光浴できるデッキなど自然を感じながら、ゆったりとした暮らしが満喫できる。開設して3年目に入るこのホームは地域一番のホームになることを目標に職員が熱心に日々の暮らしを支援している。各種の会議では介護福祉課・地域包括支援センター・民生委員・駐在所との交流も盛んに行われ、地域に根づくグループホームとして管理者・職員が一丸となって取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 昨年度の評価について運営推進会議やミーティングで公表し、課題であった災害対策や看取りについて取り組んでいる。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員全員で自己評価を行い、日々のケアやサービスを振り返る機会として活かしている。
重点項目②	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、2ヶ月に1回、行事を行う際に会議を開催している。土曜日や日曜日に行われているが、入居者・家族や介護福祉課・地域包括支援センターの方など各方面の参加がある。緊急時の対応や各種行事・家族会の在り方・終末期の確認事項など多様なテーマで活発な意見交換を行い、そこでの意見をサービスの向上につなげている。会議は、行事の前に開催され、家族の参加・協力が高い。また、欠席された家族にも会議の議事録を送り、ホームの現状や意見交換の内容がわかるようにし会議の重要性を伝えている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 運営推進会議は、できるだけ家族が参加できるように取り組み、ホームの現状を報告する中で、意見や苦情を言っていただけるように取り組んでいる。日常的には、家族の面会時に話を聞くように心がけている。管理者は、直接、家族より話を聞くために管理者者の携帯に電話をしていただくこともある。家族の意見や苦情は、いつでも対応できるように努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入し、地域の活動(清掃・草刈・会合・祭り・どんと焼き・商工会)など入居者と共に参加している。ホームの行事には区長や地域の方の来訪がある。町の祭りの時には神輿の訪問もある。近隣の保育園や小学校の生徒の訪問もあり交流を持つことができている。日常的には、散歩する際には地域の方と挨拶しあう関係ができている。

2．評価結果（詳細）

（　　部分は重点項目です　）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	**○地域密着型サービスとしての理念** 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「人生ゆっくり自分らしく」を理念とし掲げている。家庭的な環境・安心・安全そして尊厳を大切にした生活を提供し、それぞれの能力に応じて可能な限り自立した生活が営めるように支援するとされている。運営方針には地域との結びつきを重視し地域活動にも積極的に参加することが定められている。地域との関係は理念の中でも掲げることが求められており今後の検討を期待したい。		
2	2	**○理念の共有と日々の取り組み** 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	施設内の各所に理念を掲示している。朝の申し送り時には職員で復唱している。管理者・職員は、日々の暮らしの中で理念を振り返り、その人らしく生活できるように理念を念頭におき取り組んでいる。		
3	5	**○地域とのつきあい** 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の活動（清掃・草刈・会合・どんと焼き・商工会）など入居者と共に参加している。ホームの行事には区長や地域の方の来訪がある。町の祭りの時には御輿の訪問もある。近隣の保育園や小学校の生徒の訪問もあり交流を持つことができている。日常的には、散歩する際には地域の方と挨拶しあう関係ができている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	**○評価の意義の理解と活用** 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価を行い、日々のケアやサービスを振り返る機会として活かしている。昨年度の評価について運営推進会議やミーティングで公表し、課題であった災害対策や看取りについて取り組んでいる。		
5	8	**○運営推進会議を活かした取り組み** 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回、行事を行う際に会議を開催している。土曜日や日曜日に行われているが、入居者・家族や介護福祉課・地域包括支援センターの方など各方面の参加がある。緊急時の対応や各種行事・家族会のあり方・終末期の確認事項など多様なテーマで活発な意見交換を行い、そこでの意見をサービスの向上につなげている。会議は、行事の前に開催され、家族の参加・協力が高い。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議は土・日に開催されているが、介護福祉課の担当者の参加もあり、協力体制を築いている。また、みやこ町の地域ケア会議に参加し、グループホームの実状やケアサービスについて折にふれ伝えている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	職員は制度の研修に参加しており、家族は運営推進会議で権利擁護の制度について町の担当者から説明が行われている。玄関にも制度に関して内容を掲示しており理解していただけるように努めている。		
4．理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には毎月1回、"愛だより"を送付している。本人の写真・言葉・状況報告・行事などを掲載しており、ホームでの暮らしをひと目で理解することができる。中々来訪することができない家族から、とても喜ばれている様子が確認できた。その他にも面会時や状態の変化があった時など時間をとって話すように取り組んでいる。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議は、できるだけ家族が参加できるように取り組み、ホームの現状を報告する中で、意見や苦情を言っていただけるように取り組んでいる。日常的には、家族の面会時に話を聞くように心がけている。管理者は直接、家族より話を聞くために管理者の携帯に電話をしていただくこともある。家族の意見や苦情は、いつでも対応できるように努めている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職する職員は入居者にさりげなく離職することを話していただいている。新規職員は数回遊びに来ていただき、それから仕事に入ってもらうようにしている。離職や異動の際の影響は最小限にとどめるように取り組んでいる。		
5．人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員につても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	職員の採用に性別や年齢などは採用対象から排除しないようにしている。職員はそれぞれの特技を活かし、各種の委員会を施設内に設置し、職員の持っている能力が活かせるように取り組んでいる。レクリエーション委員・給食委員などを職員が担当している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	人権については研修資料を用意している。新規採用時には新入職研修の中で十分に説明を行っている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修に定期的に参加し、多くの職員が受講できるようにしている。2ヶ月に1回苑内の研修報告書を全職員が閲覧できる。職員希望の資格取得の際は勤務調整に配慮しバックアップしている。年に数回食事会を行い、スーパーバイザーである上司の意見やアドバイスを受けている。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	京築グループホーム協議会に参加しており交流を図っている。相互の意見交換などを行い、グループホームのネットワーク化を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前見学や他の入居者と過ごしていただいたり、本人が求めていること・不安や生活状態を把握するように努め、体験入居も行いながら徐々になじんでいただくように支援している。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常的に入居者に食事の下ごしらえ・洗濯などを手伝っていただいている。庭に畑を耕した際には、男性2名の入居者が率先してクワを振られた。その後の畑での野菜づくりなども入居者が楽しんで作られた。農作業などは教わることが多々あり、その方の能力に応じてお手伝いをしていただいている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの行動や言動からどうしたいのかを汲み取ることができる関係を構築している。体調がよくない時のサインがわかりにくく職員が過敏になることもある。帰宅願望がある時などは家族と連絡を取り、自宅に訪問するなどで対応している。本人の意向を敏感に感じ取ろうとされる気持ちを理解することができた。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	アセスメントは本人と家族の意向を確認し作成している。その日の生活などがわかりやすい介護計画となっている。食事などの共同で行われる予定・個人別の予定を日課の中で分け表を作成し、個別性のある介護計画を作成している。	○	本人の意向を確認することが困難な場合も多々あり、どのような表現(表情・行動・発言など) から、このようなことを望まれているのかなど職員の皆さんが感じていることを記載すれば計画の目的が更にはっきりするのではないかと思われる。
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月毎の見直しが行われており、サービス担当者会議で評価なども見直している。計画は職員がいつでも閲覧できるように業務用にファイルされており、有効に活用しようとする姿勢がうかがえた。今後は、介護計画サービス評価の具体的な記述と医療連携の書類の整備が期待される。また、評価やモニタリングに家族の意見を記載されると家族も興味を持って計画に参加してくださると思われる。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	訪問看護ステーションとの医療連携により、医療面の充実を図っている。また、入院されている方には早期に退院できるように病院連携室との連携を図っている。家族が通院介助できない際には受診介助を行っている。最近は電話での介護相談などもあり、できる限り対応するようにしている。入居者の希望でお墓参りなども柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医を受診できる医療連携関係を築き、また、訪問診療もあり、複数の医療機関との関係を密にし適切な医療が受けられるように支援している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	昨年の外部評価後から取り組み、20年8月の運営推進会議にて話し合いを行い、方針の説明や意志確認書などをまとめていた。まだ、重度化・終末期の経験はない。今後、重度化に向けては、家族の協力など家族と共に支えていきたいと考えている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者への言葉かけなどに注意している。同姓の方には家族の了承のもと名前で呼ばせていただいている。個人の記録は鍵がかかる棚に収納し保管・管理している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	特に決まりごとがなく、「食事やおやつなどを一緒に食べましょう」というように自由に過ごしていただいている。入居者同士が「席についていないね、Aさんどうしたんだろう？」と心配し合う様子がある。生け花の好きな方はお花を活けたりする時間を大切にしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者ができることは行っていただいている。訪問時はモヤシのひげとりを一生懸命にされていた。ツクシの差し入れがある時は皆んなでハカマをとったりしているそうである。これからの季節はツクシ・セリ・竹の子などを下ごしらえしたりと差し入れも多く、忙しくもあり、また楽しみであるとの話であった。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に4回入浴できるように支援している。週2回のペースでゆっくりと入浴している様子がみられる。開設時は1年間、夜の入浴も行っていたが希望も少なくなり、安全性を配慮して昼間の入浴で対応するようになったと話された。希望にできるかぎり、そうようにと努力されてきたことが確認できる。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理や味付け・食器洗い・お盆拭き・食事の挨拶・生け花の指導など、できる人ができる力を活かした役割を支援している。お金などは、自分で払っていただけるようにお金を持っていただくなど社会性の維持につなげている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は特に決めていないが、日課として支援している。買い物には車で出かけて、ゆめタウン・マルショクなどに出かけている。目的を持って個別に外出も支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は鍵をかけていない。戸の開閉を行うセンサーで開いたことを知らせるようになっている。出入り口は職員の事務室から見やすい位置にあり、いつも気にかけている。庭に入居者が出た時には、さりげなく職員がつきそう様子があった。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回の消防訓練を行っている。設備としては各部屋入り口に排煙窓のレバーがあったり、非常口が4ヶ所あり、出火場所により避難する場所を変えることができる。緊急通報システムも完備されている。非常食も別棟に1.5回分常備している。地域との緊急時の通報・連携体制は自治会や運営推進会議で参加・協力を呼びかけている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	給食委員が献立を作成している。食事摂取量と水分量は細かく観察し記録している。入居者の状況により、食事形態を工夫し、自分で食べることを基本に支援している。今後は、栄養士や栄養管理士に1度メニューを見ていただき、助言を受けられるとよいと思われる。給食委員の方の自信と安心につなげることができると思われる。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム全体に広さと落ち着きを感じることができる。廊下・居間・畳敷きのコタツなど広々としており、ソファも数ヶ所に配置されており、自分の場所を入居者は作ることができる。暖かい光・静かな部屋・窓から見える広い庭と時折見える鳥や動物達が自然を感じさせてくれる。トイレ・浴室の必要な所には手すりを設置している。玄関や壁に写真や折り紙などの展示をしている。お雛様も飾られており季節感を感じる、家庭的な雰囲気づくりを行っている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口には、それぞれの用意した飾りがあり、自分の部屋を演出している。居室の中はクローゼットがあり、収納しやすくなっている。これまで使われていた家具などが持ち込まれ、暖かい雰囲気が感じられる。車椅子の方や転倒される方は床に緩衝マットが工夫され、衝撃を少なくするなど安全性に配慮している。		